本の雑談

【 第1号 】

トキメキ本



海苔弁 31

藤井　恵／著

誠文堂新光社

海苔弁とおかずの作り方を紹介した

レシピ本です。

タテに開くスタイルがかっこいい。

表紙の紙が海苔みたいな手触り。

座談会「ミステリー編」

司書が本のことを
いろいろしゃべっています。

中面へどうぞ

ほんの小さな話題　1

「小説の景色は

カラーですか？」

①カラー

②モノクロ

③小説による

④読んだときによる

文字を読んでいるだけで、見たことがない風景が見えてきたり、出会ったことがない人の顔が想像できたりするのは不思議なことです。

スタッフの投票では③が多数でした。

あなたは、どのタイプですか？

ほんの小さな話題　2

「夏の文庫フェア」

角川文庫、集英社文庫、新潮文庫などが夏休みに合わせ、紹介冊子を発行されています。これを見て、読みたい本を考えるのが楽しいです。

角川文庫は、伊坂幸太郎さんの殺し屋シリーズがメタリックカバーになっている！

集英社文庫は、クリアしおりがしおりにしては大きくておもしろい。

新潮文庫は、100冊の50周年を記念した7人の作家によるアンソロジー『プレゼント』が豪華でびっくり。

いろいろと迷いましたが、今年は、『パッキパキ北京』（綿矢　りさ／著　集英社文庫）と『こちら空港警察』（中山　七里／著　角川文庫）を読みました。

次号予告：ノンフィクション作品についてしゃべります。

令和8年9月15日発行　　米原市立図書館

A 最近に読んだミステリーで一番おもしろかったのは何？

B 『**神の光**』です。6編の短編が入っているのですが、すべてが「消失トリック」をテーマにしていて、驚く展開があります。



『神の光』
（北山猛邦／著
東京創元社）

C 昨年の年末ランキングで上位に入ってた

B 中でも「藤色の鶴」が、時代や国の移り変わりが激しく、それぞれにドラマがあっておもしろかったです。

A どんな話なん？

D 個人宅でCM撮影をすることになって、プロデューサーが泊まり込みで撮影をするのですが、殺人事件が起こるというものです。



『幸せな家族』
（鈴木悦夫／著
中央公論新社）

A 何で読んだん？

B もともと著者のファンだったんです。メフィスト賞受賞の『クロック城』殺人事件』でファンになりました。独特な空気感と雰囲気が好きです。

D 私は、『**幸せな家族**』です。イヤミスです。ページをめくるのが怖いけど、読みたい！ってなりました。

A 何で読んだん？

B 『**神の光**』です。6編の短編が入っているのですが、すべてが「消失トリック」をテーマにしていて、驚く展開があります。

C 昨年の年末ランキングで上位に入ってた

B 中でも「藤色の鶴」が、時代や国の移り変わりが激しく、それぞれにドラマがあっておもしろかったです。

A どんな話なん？

D 個人宅でCM撮影をすることになって、プロデューサーが泊まり込みで撮影をするのですが、殺人事件が起こるというものです。

A 怖いん？

D はい。あと、イヤミスも手掛ける著者の『**自殺予定日**』は、イヤミスと期待して読んだんですが、とてもきれいに終わってしまって…。面白いミステリーでした。

E ホラーだったら『近畿地方のある場所について』がおもしろかったです。あちこちの怪談を集める話で、夏の夜におススメです。単行本と文庫本で内容が違うので、先に単行本を読む方が良いです。

C 私は『**右園死児報告**』かな。ミステリーって途中で展開が分かってしまうことがあるやん。でも、この本は絶対に予測ができない。



『右園死児報告』
（真島丈吉／著
KADOKAWA）

A ホラーなん？ ホラー要素があるなら、読まない。

C ホラーやけどホラーじゃない。ホラーから急にバトルになるねん。三分の一ぐらいまでは「何これ？」って我慢の時間やけど、そこを過ぎたら止められなくなるわ。

E 続編もおもしろくて、そこで謎が解明するんですが、また新たな謎が出てきます。

C そうそう。万人には薦められないけど、似たような本が思いつかない、すごい本。

A 『変な家』は？

E 私は、「家」より「絵」より『**変な地図**』がおもしろかったです。古地図の場所を訪れる話でした。



『変な地図』
（雨穴／著
双葉社）

E それと、『**殺し屋の営業術**』もおもしろかったです。最後のぶっ飛び具合が良かった。シリーズ続編が出ました。

B たしかに『殺し屋の～』は振り切った感が良かったなぁ。本屋大賞にノミネートされるとは思ってなかった。加速していく感じがありましたね。



『殺し屋の営業術』
（野宮有／著
講談社）

A ホラーもイヤミスも苦手やわ。『**両京十五日**』がおもしろかった。中国の明の時代のミステリー。南京から北京へ逃亡するロードノベルやねん。「逃亡」、「ロードノベル」どっちもおもしろい要素やん。

C ふーん。



『両京十五日』
（馬伯庸／著
齋藤　正高／訳
泊　功／訳（早川書房）